

ChatGPT o3-mini-high

共有する

Hi

あなた:

三菱電機の成長戦略への知的財産部門の貢献実績

ChatGPT:

三菱電機の成長戦略に対する知的財産部門の具体的な貢献実績について調査します。

より詳しい情報を得るために、以下の点について教えていただけますか？

- どの期間の実績を特に知りたいですか？（例：直近 5 年間、過去 10 年間など）
- 特定の技術領域（例：半導体、AI、エネルギー関連技術など）に焦点を当てますか？
- 特許出願数、ライセンス収益、競争力強化の取り組みなど、どのような指標を重視しますか？

これらの情報が分かれば、よりの確な調査が可能になります。

あなた:

コーポレートレベルでの過去 10 年間と将来計画への知財部門による貢献を知りたい

ChatGPT:

三菱電機のコーポレートレベルでの過去 10 年間の成長戦略における知的財産部門の貢献と、将来計画に対する役割について調査します。

具体的には、

- 過去 10 年間の特許出願数、取得特許の影響、ライセンス収益、訴訟や係争の回避などの実績
- 主要な技術分野での知財活動（AI、エネルギー、半導体、IoT など）

- 競争力強化のための知財戦略(オープンイノベーション、企業提携、技術ライセンスの活用)
- 知財部門の組織改革やデジタル活用
- 未来の成長領域における知財戦略(カーボンニュートラル、スマートシティ、DXなど)

これらの観点から情報を収集し、整理した上でお知らせします。

Research completed in 5m: 16 件の情報源

## 三菱電機 知的財産部門の過去 10 年の 貢献実績と将来計画

### 過去 10 年間ににおける知財部門の貢献実績

#### 豊富な特許取得と知財ポートフォリオの影響力

三菱電機は知的財産を「将来にわたる重要な経営資源」と位置づけ、事業戦略・研究開発戦略と連動した知的財産活動を展開してきました [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。その結果、過去 10 年間で企業別国際特許出願件数ランキング世界トップ 5 を維持しており、2023 年には世界知的所有権機関(WIPO)の統計で世界第 4 位(日本企業で第 1 位)を獲得しています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。国内においても特許庁発表の特許登録件数ランキングで 2021 年に第 1 位、2023 年に第 2 位になるなど、一貫して上位に位置しています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)、[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。このように大量かつ質の高い特許群を築いたことで、Clarivate 社の「Top 100 グローバル・イノベーター」に今年で 10 年連続・通算 11 回選出されており、特に三菱電機の特許の“影響力”が高く評価されています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)、[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。実際、同社の特許群は AI や通信、エネルギー分野の基幹技術を網羅し、多くが標準必須特許として産業界に影響を及ぼしており、知財ポートフォリオの戦略的価値は極めて大きいと言えます。

#### 主要技術分野における知財活動

過去 10 年で三菱電機は幅広い技術分野でバランスの取れた知財活動を展開してきました。電機メーカーとして家電から宇宙まで事業領域を持つ強みを活かし、電気・機

械・化学分野を中心に約 7 万件の特許を保有しています [jbpress.ismedia.jp](http://jbpress.ismedia.jp)。特に近年はソフトウェア・AI・IoT などデジタル分野に重点を移し、ハードウェアだけでなくソフトや AI、ビジネスモデルにも及ぶ特許取得へと領域を拡大しています [jbpress.ismedia.jp](http://jbpress.ismedia.jp)。例えば AI 技術については、特許出願全体に占める AI 関連の割合を 2025 年度までに 15% に高める目標を掲げ [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)、IoT やデジタルソリューション関連の知財も強化しています (同様にソリューション系特許比率 30% を目標) [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)。またエネルギーやパワー半導体などカーボンニュートラル実現に不可欠な分野、産業メカトロニクスや FA (工場自動化) 分野でも継続的に特許を取得し、将来の市場ニーズに備えた知財ポートフォリオを構築しています。さらに技術動向の分析へのデジタル活用にも積極的で、脱炭素技術に関する特許を AI で自動判定する手法を日本特許情報機構と共同開発するなど、知財部門がテクノロジートレンドの俯瞰にも貢献しています [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)。このように、主要技術領域ごとに戦略的な特許網を築いたことが過去 10 年の競争力強化の土台となりました [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)。

## ライセンス収益と知財リスク低減

知財部門は自社の知的財産権を積極的に収益源として活用し、ライセンス収益の確保にも貢献しています。三菱電機は、保有する標準必須特許を各種特許プールやライセンスプログラムに提供し、映像圧縮技術や無線通信規格など幅広い分野でライセンス供与を行っています [mitsubishielectric.com](http://mitsubishielectric.com)。例えばデジタル放送や CATV、衛星 UHDTV、モバイル通信 (W-CDMA/LTE/5G)、Wi-Fi 等の国際標準に関連する特許群を他社にライセンスしており、継続的なライセンスフィー収入を得ています。また全世界で数万件規模の特許を有償開放しており [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)、自社技術を他社の新製品・サービス開発に提供することで新たな市場創出にもつなげています [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)。このようなオープンな権利活用は、他社とのクロスライセンス交渉を円滑にし、知財係争の発生を抑制する効果も生まれました。実際、三菱電機では自他社の知的財産を尊重する企業文化が根付いており、製品開発の各段階で他社特許の調査を徹底することで模倣や侵害リスクの低減に努めています [mitsubishielectric.co.jp](http://mitsubishielectric.co.jp)。その結果、過去 10 年で重大な知財訴訟を回避しつつ、自社のコア技術を守り抜くことに成功しています。

## オープンイノベーション推進と知財戦略の転換

自社の競争力強化のみならず、オープンイノベーションの促進も知財部門の近年の重要な貢献領域です。2021 年度から開始した「Open Technology Bank® (オープンテクノロジーバンク)」は、三菱電機が長年培った特許・ノウハウ等の技術資産を社外に

ライセンス提供し、パートナー企業との共創を推進する取り組みです

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。従来は競合他社の参入阻止や模倣防止のために特許を独占活用し権利行使する「競争」の手段が中心でしたが、OTB では特許を\*\*「他社連携のツール」として位置づけ、協業先の新製品開発支援や共同での新規事業創出に活用しています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。例えば社内で眠っている技術や一部用途でしか使われていない技術の特許情報という形で公開し、外部企業が自社ニーズに合う技術を探索できるプラットフォームを整備しました。このように知的財産を“競争”から“共創”のツールへと転換する戦略は、企業間提携の新たな糸口を作り出し、オープンイノベーションによる新価値創造を後押ししています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。また、知財部門は標準化活動\*\*にも深く関与し、国内外の企業・大学・団体と協調して国際標準の策定に参画しています。デジタル化で異業種連携が進む時代において、自社技術を産業標準に盛り込むことで市場競争力を高める狙いです

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。過去 10 年で培われたこのような知財戦略(共創志向・標準化志向)は、エコシステム型の事業展開を支え、同社の競争力強化と市場拡大に寄与しました。

## 知財部門の組織改革とデジタル活用

知財部門自身も、この 10 年で組織体制の強化とデジタル技術の活用を進めてきました。三菱電機では全社の知財機能を統括する知的財産センター(本社知財部門)を置き、各製作所・研究所・グループ会社の知財部門と連携するマトリクス体制を構築しています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。さらに海外の米欧中 ASEAN 各拠点にも知財駐在員を配置し、現地での知財力強化や模倣品対策を推進してきました

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。経営戦略との一体化をより強固にするため、2022 年には知的財産センター内に「知財戦略部」を新設し、その下に標準化戦略グループと技術資産活用グループを設立する組織改革を実施しています [jpress.ismedia.jp](https://jpress.ismedia.jp)。これにより知財戦略立案機能を強化し、事業部門と連携して標準化・オープンイノベーションを推進できる体制が整いました。また、特許取得テーマもハード中心からソフト・AI・ビジネスモデルまで広げるなど、社内の発明創出の裾野を拡大しています

[jpress.ismedia.jp](https://jpress.ismedia.jp)。人材面では知財・標準化の社内資格制度を運用し、実務スキル向上のための教育プログラムを展開するとともに、知財アナリスト資格認定も導入するなど専門人材の育成に努めました [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。さらに知財業務への IT 活用も積極的で、特許情報分析に AI を用いるシステムの共同開発

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp) や、デジタルツールによるグローバル権利管理の効率化などに取り組んでいます。これらの組織・プロセス改革により、知財部門は経営に直結する戦略部門としての役割を一段と高め、知財活動の質・量双方で過去最大級の成果を上げました。

## 将来計画と知財部門の役割

### 成長戦略における知財部門の位置づけ(カーボンニュートラル、スマートシティ、DX)

三菱電機は現在、「サステナビリティの実現」を経営の柱に据え、カーボンニュートラル(脱炭素)やスマートシティ、デジタルトランスフォーメーション(DX)といった領域で成長戦略を推進しています。知財部門はこれら戦略目標を支えるキーフランクションとして位置づけられており、技術優位性の確保とルール形成支援の両面から貢献が期待されています。例えば、カーボンニュートラル戦略では、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの大量導入を支えるパワーエレクトロニクス技術、電動化・電力システム技術などに関する**特許群の強化**が重要です。同社はもともと省エネ・電力制御技術に強みを持つため、関連する知財ポートフォリオをさらに拡充して競争優位を確立しつつ、業界横断での**標準化活動への参画**によってカーボンニュートラル実現に必要な新ルール作りにも関与していくとみられます [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)、[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。スマートシティやDX(産業デジタル化)の分野では、AI・IoT、通信インフラ(5G/6G)、パワー半導体、エッジコンピューティング、セキュリティ等、多岐にわたる技術要素を含みます。知財部門はこれら**都市・社会システムの次世代基盤技術を網羅する特許群の構築**を進め、自治体や他企業との協業プロジェクトにおいて自社技術が活用される土壌を整備します。特にデータ連携プラットフォームやエネルギーマネジメントなどシステム系の発明も積極的に権利化し、スマートシティ事業における発言力を高めています。さらに知財部門は、**経営戦略・マーケティング・営業・R&D**を下支えする機能として、事業を通じた社会課題解決と新市場創出を知財面から牽引する役割を担っています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。各成長戦略テーマごとに必要な知財戦略を策定し、権利取得だけでなく知財の活用によって市場エコシステム形成に寄与することで、サステナビリティ経営の実現に貢献していく方針です [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)、[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。

### 未来の成長領域に向けた知財戦略の展開

今後の成長領域で三菱電機が優位に立つため、知財部門は**将来を見据えた知財ポートフォリオ戦略**を一層強化します。具体的には、新規事業が見込まれる技術分野を予測して先行的に特許出願する「プロアクティブ出願」を拡大し、知財面での布石を打ちます。先述のAIやデジタルソリューション関連では2025年度に向けた数値目標(AI特許比率15%、ソリューション特許比率30%)を掲げており [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)、今後もソフトウェア、サービスプラットフォーム、ビジネスモデ

ル発明などへの出願を増やしていく計画です。また「カーボンニュートラル」や「循環型経済」に資する新技術(例:次世代電池、電力インフラ、リサイクル技術、スマートグリッド等)についても重点的に知財を確保し、将来的な事業ポートフォリオを支える知財の土台を築きます [meti.go.jp](https://meti.go.jp)、[japio.or.jp](https://japio.or.jp)。知財戦略部門では社内外の技術動向調査を強化し、**新たな技術ドメインを早期に発見して特許網を構築**する体制を整えています。例えば先端研究所や大学との連携を通じて発明のシーズを掘り起こし、必要に応じて特許の共同出願やライセンス取得も駆使しながら、自社に有利な知財ポジションを確立していきます。さらに既存の強み領域(重電、FA、宇宙・防衛、家電等)についても引き続き基本特許を維持・強化し、新旧技術の組み合わせによる**ポートフォリオの最適化**を図ります [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。このようにして構築された知財ポートフォリオは、将来の三菱電機グループの事業競争力と直結し、新規ビジネス参入時の参入障壁や優位性確保に資するものとなります。

## グローバル市場での知財戦略と競争力向上

三菱電機の知財戦略は今後ますます**グローバル志向**を強めていきます。同社は既に、海外売上比率の上昇に合わせて特許保有数に占める海外権利の割合を増やす方針を打ち出しており [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)、新興国を含む重要市場での知財網構築を加速しています。具体的には、事業展開に先行して新興国にも特許出願する戦略をとり、将来の市場成長が見込まれる地域で先手を打っています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。また米国、欧州、中国、東南アジアの各拠点に配置した知財駐在員が現地法人・研究所と連携し、**模倣品対策や権利行使**にも取り組むことでグローバルでの知財リスク軽減と機会創出に寄与します [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。その成果は既に表れており、2023年の国際特許出願件数ランキングで世界4位に入るなど世界的な知財プレゼンスを示しています [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。将来に向けても、この**強力な国際特許網の構築**が続けられ、各国の競合他社に対する交渉力(クロスライセンス時の優位性)を高める武器となります。加えて、**国際標準化活動への積極関与**も競争力向上策の一環です。デジタル化に伴い企業や業種の枠を超えた協調が必要となる中、標準の策定をリードすることはグローバル市場を獲得する有効な手段です [mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)。三菱電機は今後も標準化戦略を推進し、自社の知見を国際ルールに反映させることで市場主導権を握る考えです。例えば次世代通信規格やスマートシティ関連の標準プロジェクトに参画し、自社特許群をエコシステム内で必須の位置づけにすることで競合に優位性を保ちます。こうしたグローバル展開における知財戦略により、同社は海外でも知財起点の共創ネットワークを築き、世界市場での持続的成長と競争力強化を図っていく計画です

以上、三菱電機における知的財産部門は、過去 10 年間で卓越した知財成果を挙げつつ、それを土台に将来の成長戦略を力強く支える役割を担っています。膨大な特許資産と高度な知財マネジメント力を武器に、今後も同社のイノベーション創出と社会課題解決に貢献していくことが期待されます。

**参考資料:**三菱電機 公式サイト、ニュースリリース、統合報告書、特許庁・Japio 公表資料等

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)

ほか各所より引用・参照しました。さらに詳細な情報は三菱電機グループの知的財産戦略ページ等をご参照ください。

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)

[mitsubishielectric.co.jp](https://mitsubishielectric.co.jp)